

環境にやさしい佐渡米づくり情報「JA佐渡米」 栽培指針と品質向上ポイント

R1.7月
JA佐渡営農事業部

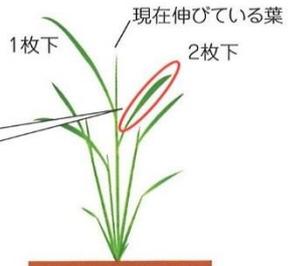
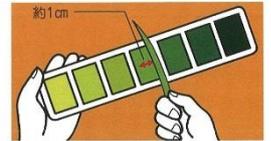
・穂肥は幼穂が出来てから登熟期までの栄養状態を保つために重要なものです。稲の生育診断により、適期適量の穂肥施用を行いましょう！

○穂肥適期目安について

基肥 + 穂肥2回 体系の場合

- ・1回目の穂肥適期目安 ⇒ 出穂20日前
- ・2回目の穂肥適期目安 ⇒ 出穂10日前

※2回目が「味好2号」の場合は出穂12日前に施用



- ① 平均的な生育の稲で最も長い茎を選ぶ
- ② その茎の中で、現在伸びている葉の2枚下の葉を選ぶ
- ③ 葉色板から1cm程度離して色を比較

一発基肥の場合

基本的に穂肥は施用しません。

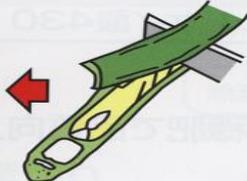
※ 施用する場合は生育診断（草丈と葉色の計測）を！

※田植え時期の早晩や生育状況により、ほ場の生育に差が生じます。必ずほ場ごとに幼穂長を確認しましょう。
今後稲の生育状況により、1回目穂肥に味好2号を使用する場合は目安の5日前程度早めて施用してください。

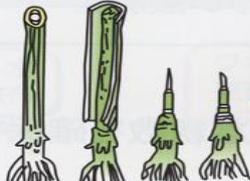
○幼穂長の測り方

【幼穂の長さを確認する】

〈その1 カッターなどで割る〉



〈その2 葉鞘をむく〉



出穂前日数	幼穂の長
25日	0.1cm
20日	0.5cm
18日	1.0cm
12日	5.0cm

○穂肥の施用量目安

肥料名	施肥量目安 (全窒素含有量)	肥料の特徴
越後の輝き 有機50穂肥	8~10kg/10a (0.96~1.2kg)	化学窒素の割合が多いので、早めに吸収される
※ 味好2号	15~20kg/10a (1.05~1.4kg)	100%有機物由来なので分解吸収までに時間がかかり、早く施用する必要がある。

※1回目の穂肥として使用する場合は出穂25日前頃の施用が目安。施用時期が遅くなると、玄米タンパク含有量が高まる場合があるので、出穂10日前までには施用しましょう。

○その他

稲こうじ病の発生に注意！

7月中旬以降の天候が低温で雨が多い場合は必ず防除を実施しましょう。

※今現在の予報では、7・8月は雨や曇りが多くなる予報なので注意しましょう。

カメムシの多発生に注意！

6月調査で多く確認！！

草刈：7月13日～26日

薬剤防除：1回目は出穂5～7日後

2回目は1回目の7～10日後

この文書に関する問い合わせ先
JA佐渡 各営農窓口